

# 観光地アメニティから見た 外客パーソントリップとマーケティング・コミュニケーション

[継続研究]

常勤研究者の部



代表研究者 大 津 正 和  
同志社女子大学  
現代社会学部  
教授

共同研究者 王 怡 人  
琉球大学  
観光産業科学部  
教授

鄔 雅 瓊  
生活協同組合コープさっぽろ  
マーケティング部

橋 元 理 恵  
北海商科大学  
商学部  
教授

## はじめに

今回、我々はMTZ選定と、それに基づいた中国からのインバウンド客の日本国内での観光行動の把握、そしてそのような観光行動をもたらす観光情報についての研究を行うことで、日本におけるインバウンド観光マーケティングの研究と実務の両面にとっての基礎とできるような知見を得ようと取り組んだ。MTZとは、観光者が複数の観光地アメニティを巡るために行う周遊移動である観光パーソントリップの集積が特に顕著なゾーンという意味で、モーダル・トリップ・ゾーン (Modal Trip Zone) の略称である。MTZは、類似の観光パーソントリップが集積しているという意味で、多くの観光者が集まっているゾーンであ

り、いわゆる人気観光エリアと重なり合う場合が多い。しかし、これまで人気観光エリアが、話題になっているとか、混雑しているとかといった、曖昧な認識で使われていたのに対して、MTZ は地理的な流動人口データを使用して、一定のアルゴリズムによって抽出され、選択されるという点で全く違ったものである。MTZ は、例えば目的地マーケティングの客体として捉えたり、観光研究の分析単位として使用したりすることができる。しかも、MTZ は抽出に使用される流動人口データの精度にのみ依存した明瞭な区画という特徴を持っている。このような観光エリアの把握は、今まで行われたことがないという意味で、今回の試みは画期的な試みともいえるだろう。

## 1. MTZ の選定

### 1-1. 地域メッシュ

ここからは、MTZ の抽出方法を紹介する。まず、MTZ の構成単位として使用する地域メッシュについて確認しておく。地域メッシュは、緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目（メッシュ）の区域に分けて、各区域の統計等を編成していくために使用される地理的単位である。現在の日本では、地域メッシュは、昭和 48 年 7 月 12 日行政管理庁告示第 143 号に基づく「標準地域メッシュ」を使用してコード化<sup>1</sup>されている。このルールに基づいて、1 辺が約 250m の四角形に区切ったメッシュを 4 分の 1 地域メッシュと呼ぶ。本研究では、この 4 分の 1 地域メッシュ（以下では、単にメッシュと呼ぶ）に基づいたデータ収集および考察を行う。日本の代表的な観光都市であり、性格が異なる京都市（宇治市と久御山町を含む：以下同様）と札幌市を取り上げ、この 2 都市をカバーするメッシュを研究の基礎単位とする。

### 1-2. 観光地アメニティデータのデータベース化

複数のメッシュが連結したゾーンが、観光対象として魅力的かどうかを規定する要因として、そのゾーンにどのような観光地アメニティが存在<sup>2</sup>しているかを考える。観光地アメニティとは、観光者が訪問する地域に存在し、観光者の観光ニーズを満たす、あるいは観光者の行動や滞在をサポートする各種の存在

---

<sup>1</sup> 総務省統計局『地域メッシュ統計について』p. 3

<sup>2</sup> 『観光地のアメニティ』pp. 10~11

である。多数の観光者が訪問し、結果として多数の観光パーソントリップが集積するのは、そのゾーンに有効な観光地アメニティが存在しているからと考える。

分析用のデータベースに収容する観光地アメニティとして、文化、買物、飲食、娯楽、宿泊、交通の6カテゴリーを設定<sup>3</sup>した。これら観光地アメニティの存在が観光パーソントリップの誘引となっているかを検証するために、各メッシュにどのような観光地アメニティが存在しているかをデータベース化する。実際には、カテゴリーごとに含めるべき対象を具体的に設定し、それらの所在を各種の情報源で確認し、所在地の経緯度からどのメッシュに属するかを決定して、データベースの該当セルに所在数を記録した。結果、今回作成したデータベースには、表1で示される数のデータが収容された。

表1 データベース収録した観光地アメニティ件数

カテゴリー	エリア	
	札幌	京都
文化	73	3,106
商業	75	119
飲食	726	1,096
娯楽	34	19
宿泊	147	238
交通	101	145
合計	1,156	4,723

### 1-3. メッシュへの流動人口と観光パーソントリップ集積ゾーンの検出

あるメッシュに、ある時点で何人の人間が存在しているかという流動人口データを用いて、観光パーソントリップの集積を検出する。ここでの観光パーソントリップとは、観光のために個人が観光地エリアで見せる移動とする。観光者が、観光のために移動する場合は、そのエリアに散らばる観光地アメニティを巡る移動となる。このような観光パーソントリップを捉えるための具体的なデータとして、2016年の2月と8月の休日のメッシュ単位の流動人口データを入手した。2月と8月の休日を選択したのは、通勤や通学による流動人口をできるだけ除去するとともに、中国人インバウンド客の割合が多くなるようにと

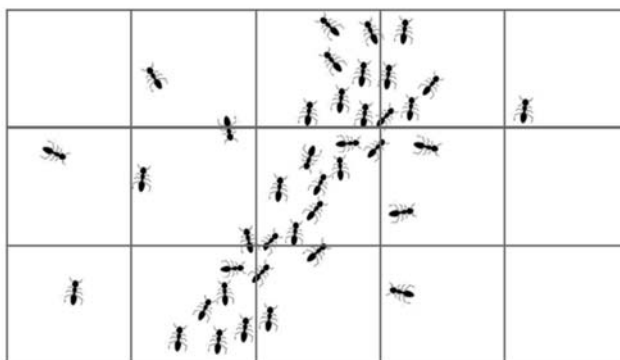
<sup>3</sup>『観光地のアメニティ』p. 10、p. 34などを参考に、対象地域の状況を勘案して設定

いう意図による。2月には、旧暦の正月に当たる春節があり、中華圏の人々にとって長期休暇となるので旅行の季節である一方、8月は夏のバカンスシーズンであり、この期間も中国からのインバウンド客は増加する。

#### 1-4. メッシュの流動人口と観光パーソントリップ集積ゾーンの検出

一定のルートを通る観光パーソントリップが集積すると、そのルートを含むメッシュ内に存在する人数は増え、流動人口の数字も増加する。例えば、行列しているアリを想定しよう（図1）。ある時点にこのアリの行列を含む範囲にメッシュを設定して各メッシュ内のアリの数を数えると、当然行列のルートに被さったメッシュ内に観察されるアリの数はそうでないメッシュよりも多くなる。

図1 流動人口データから観光パーソントリップ集積を把握する概念図



このように、流動人口データは、類似のルート上を移動する多数の人が存在した場合に、ルートを含まない周辺のメッシュよりも人数が多いメッシュの連鎖として、観光パーソントリップの集積を示すことになる。本研究では、このような視点で、観光パーソントリップが多いゾーンを抽出する。

#### 1-5. 観光パーソントリップ集積ゾーンの抽出アルゴリズム

具体的な方法は、まず全メッシュについて2月の休日と8月の休日の午後15時の流動人口データの平均値を算出する。このようにして得られる数字を平均休日昼間流動人口と呼ぼう。そして、全メッシュについて平均休日昼間流動人口の多い順に並べ替える。そして、平均休日昼間流動人口が最も多かったメッ

シュを選び、これを中核（親メッシュ）として周囲の8個のメッシュからその平均休日昼間流動人口が親メッシュの平均休日昼間流動人口の2分の1以上のメッシュを探し、条件を満たすメッシュを子メッシュとして選び出す。さらに、子メッシュの周囲のメッシュ（親メッシュと既に子として選択されたメッシュは除外）から、子メッシュの平均休日昼間流動人口とその2分の1の間に達しているメッシュを探し、見つければそれを孫メッシュとする。以下同様に、平均休日昼間流動人口が2分の1以上のという条件を満たすメッシュが検出されなくなるまでこの操作を繰り返す。結果として、親→子→孫→・・・と選び出された一連のメッシュを連結して観光パーソントリップ集積ゾーンとする。次に、メッシュ単位で平均休日昼間流動人口が第2位であったメッシュを親メッシュとして、同様の操作を繰り返す。ただし、第2位以下の操作では、それまでにゾーンの要素として選ばれたメッシュは選択対象から除外する。このような操作で、上位100までの観光パーソントリップ集積ゾーンを抽出した。

## 1.6. MTZの選択

上述の観光パーソントリップ集積ゾーンについて、ゾーンを構成するメッシュの平均休日昼間流動人口と平均平日昼間流動人口を平均し、これらの観光パーソントリップ集積ゾーン全体の総全日昼間流動人口を算出し、同時にその観光パーソントリップ集積ゾーンを構成するメッシュ数で割ったメッシュあたりの全日昼間流動人口を算出し、これを単位全日昼間流動人口と呼ぶ。ゾーン抽出の際は、休日の昼間流動人口のみを用いたが、ここからの考察には平日の昼間流動人口も加える。これは、インバウンド客は基本的に休日と平日の別なく観光活動を行うのでこれを加えるという判断によるものである。

観光パーソントリップ集積ゾーンを、それぞれの総全日昼間流動人口と単位全日昼間流動人口の順に並べ替え、それぞれの基準で、札幌は10位以内、京都は20位以内を選んだ。総昼間流動人口と単位全日昼間流動人口から選択したが、重複を消すことによって、札幌は17のゾーンが、京都は33のゾーンが、それぞれ選択された。それらのうち、札幌の単位全日昼間流動人口で選ばれた2ゾーンはゾーン内に観光地アメニティが立地していないことから分析対象から除外し、最終的に札幌は15のゾーンを選んだ。これらのゾーンがMTZとして選定された。札幌と京都それぞれに、このようにして選択されたMTZごとの観光地アメニティの各カテゴリー立地状況を集計した結果が、表2と表3である。

表2と表3から、鉄道のターミナル駅周辺や繁華街や商業地周辺そして主要な観光対象の周辺にMTZがあることが分かる。これらは、観光者たちの多くが類似の観光パーソントリップを顕著に集積させているゾーンであると考えられる。

## 2. MTZ への観光パーソントリップを誘引する観光地アメニティ

上で選定したMTZを分析単位として、そこに立地する観光地アメニティの状況が観光パーソントリップの誘引にどのように結びついているかの考察を進める。表2と表3に示されるデータから、特に流動人口が多いMTZにどのような観光地アメニティが立地しているのかという特徴をファジー集合分析によって確認した。この手法を採用したのは、カテゴリー間の相関が高いものが存在するため、それが原因となる統計的不安定性を避けるためである。

表2 MTZ 内のカテゴリー別観光地アメニティの立地状況（札幌）

ゾーン名	選択	メッシュ数	総全日昼間 流動人口	単位全日昼 間流動人口	ゾーン内の観光地アメニティ						およその場所
					文化	商業	娯楽	飲食	宿泊	交通	
S001	両	2	50,950	25,475	0	9	0	46	3	0.50	札幌駅周辺
S002	両	11	147,375	13,398	0	9	1	107	22	0.55	大通公園
S003	両	1	14,125	14,125	0	3	0	21	4	1.00	狸小路
S005	単	1	7,425	7,425	0	2	0	8	1	2.00	新札幌駅
S006	単	1	5,375	5,375	1	2	0	15	0	0.00	北7条
S008	単	1	5,225	5,225	0	1	0	11	0	0.00	JR発寒駅付近
S009	単	1	4,225	4,225	0	0	0	4	0	0.00	手稲駅北東
S011	単	1	5,375	5,375	0	1	0	10	0	1.00	桑園駅
S015	総	11	39,875	3,625	0	2	0	6	2	0.09	バスセンター—駅北東
S020	総	5	14,825	2,965	0	2	0	7	0	0.20	福住駅南東
S022	総	6	15,775	2,629	0	0	0	5	0	0.17	白石駅北東
S029	総	10	23,350	2,335	0	0	0	11	0	0.10	麻生駅
S036	総	11	27,650	2,514	0	0	0	8	1	0.27	南八条西
S049	総	14	28,100	2,007	0	1	0	3	1	0.07	東札幌駅
S087	総	11	23,525	2,139	1	0	0	1	0	0.09	西18丁目駅

注：「交通」はメッシュあたり鉄道駅数（以下同様）。

表3 MTZ 内のカテゴリ別観光地アメニティの立地状況（京都）

ゾーン名	選択	メッシュ数	総全日昼間 流動人口	単位全日昼間 流動人口	ゾーン内の観光地アメニティ							およその場所
					文化	買物	娯楽	飲食	宿泊	交通		
K001	両	4	88,125	22,031	1	5	0	33	11	0.50	JR京都駅北側	
K002	両	2	34,675	17,338	1	3	0	15	3	1.00	阪急烏丸駅・地下鉄四條駅付近	
K003	両	5	59,350	11,870	4	8	0	66	3	0.40	阪急河原町駅・四條河原町付近	
K004	単	1	8,025	8,025	0	1	0	7	0	0.00	JR桂川駅南西部	
K005	単	2	14,275	7,138	1	1	0	9	1	1.00	阪急西院駅付近	
K007	両	4	28,450	7,113	7	3	0	19	6	0.50	地下鉄烏丸御池駅付近	
K008	単	2	11,575	5,788	0	1	0	7	1	1.50	JR・京阪・地下鉄山科駅付近	
K009	単	2	11,425	5,713	0	0	0	2	0	0.00	西大路通五条	
K006	単	2	10,050	5,025	0	1	0	8	0	0.00	五条西小路	
K013	単	1	4,775	4,775	0	0	0	3	0	0.00	堀川丸太町	
K012	両	4	18,875	4,719	6	1	0	15	9	0.50	嵐電四条大宮駅	
K025	単	1	4,700	4,700	0	0	0	1	0	0.00	国道十条	
K011	単	1	4,550	4,550	0	1	0	3	0	1.00	地下鉄醍醐駅	
K024	単	2	9,100	4,550	0	0	0	6	3	0.50	地下鉄五条駅北東部	
K010	単	3	13,200	4,400	5	1	0	8	0	0.67	JR・地下鉄二条駅付近	
U001	単	1	4,075	4,075	0	0	0	0	0	1.00	近鉄伊勢田駅付近	
K017	両	10	38,200	3,820	12	0	0	11	7	0.10	地下鉄二条城前駅付近	
K029	単	2	7,275	3,638	0	2	0	10	0	0.50	京阪伏見桃山駅西部	
K019	単	3	10,500	3,500	0	0	0	10	0	0.00	JR西大路駅南部	
K014	両	5	17,450	3,490	5	1	0	6	1	0.20	三十三間堂南西部	
K047	総	7	23,500	3,357	1	3	0	6	3	0.14	地下鉄丸太町駅付近	
K021	総	10	33,050	3,305	10	1	0	17	8	0.00	京阪五条清水駅	
K027	総	5	15,950	3,190	3	0	0	3	1	0.00	大宮通七条付近	
K030	総	6	18,675	3,113	1	0	0	1	0	0.00	伏見区竹田烏羽殿町付近	
K023	総	7	20,500	2,929	442	2	0	13	2	0.00	東山五条・国立博物館・清水寺入口	
K016	総	7	20,275	2,896	22	0	0	8	2	0.14	岡崎、平安神宮南西部	
K062	総	8	22,250	2,781	1	0	0	7	4	0.00	堀川五条東部	
K039	総	6	16,400	2,733	9	0	0	6	2	0.17	堀川今出川	
K033	総	10	25,550	2,555	0	0	0	4	0	0.10	阪急西京極駅北東部	
K070	総	8	18,975	2,372	1	1	1	1	0	0.13	近鉄竹田駅北東部	
K063	総	8	16,125	2,016	0	0	0	4	0	0.00	文化会館・阪急上桂駅	
K095	総	11	19,050	1,732	13	0	0	6	0	0.00	大報恩寺（千本釈迦堂）・北野天満宮	
K089	総	9	14,625	1,625	14	2	2	12	6	0.22	JR嵯峨嵐山駅・トロッコ嵯峨駅付近	

QCA によるファジー集合分析を、総全日昼間流動人口と単位全日昼間流動人口とについて、札幌と京都の MTZ に対して行った。それらの結果を以下の表 4 から表 7 に示す。

これらの結果から、単位全日昼間流動人口が多い MTZ は、ターミナル駅周辺や中心部の繁華街型の MTZ で、これらの MTZ はメッシュあたりの全日昼間流動人口が多い、すなわち多くの人々が集中する MTZ であると考えられる。このタイプの MTZ は、札幌と京都で比較的類似しており、「文化」以外の多くのカテゴリの観光地アメニティが充実している MTZ に流動人口が集まる傾向が見られるといえるだろう。

表4 MTZの総全日昼間流動人口に対するQCAによるファジー集合分析結果  
(札幌)

		素被覆度	固有被覆度	整合性
解	(~買物)*(~宿泊)*(交通)*(~文化)	0.438967	0.397887	0.806035
	(買物)*(飲食)*(宿泊)*(交通)*(文化)	0.228873	0.187793	0.862832
解被覆度:0.626761				
解整合性:0.825348				

注：記号「\*」はand（かつ）を、「~」はnot（否定）を示す（以下同様）。

表5 MTZの単位全日昼間流動人口に対するQCAによるファジー集合分析結果  
(札幌)

		素被覆度	固有被覆度	整合性
解	(買物)*(飲食)*(宿泊)*(文化)	0.501344	0.430108	0.984169
	(買物)*(飲食)*(~宿泊)*(~交通)*(~文化)	0.323925	0.252688	0.930502
解被覆度:0.754032				
解整合性:0.958974				

表6 MTZの総全日昼間流動人口に対するQCAによるファジー集合分析結果  
(京都)

		素被覆度	固有被覆度	整合性
解	(~買物)*(文化)*(飲食)*(~交通)	0.353945	0.04833	1
	(~買物)*(飲食)*(宿泊)*(~交通)	0.341862	0.036247	1
	(文化)*(飲食)*(宿泊)*(~交通)	0.365316	0.059702	0.980916
	(~買物)*(文化)*(飲食)*(宿泊)	0.426439	0.120824	0.943396
解被覆度:0.570718				
解整合性:0.945819				

表7 MTZの単位全日昼間流動人口に対するQCAによるファジー集合分析結果  
(京都)

		素被覆度	固有被覆度	整合性
解	(買物)*(~文化)*(飲食)*(交通)	0.322789	0.060039	0.924214
	(~文化)*(飲食)*(宿泊)*(交通)	0.29632	0.03357	0.952282
解被覆度:0.356359				
解整合性:0.921536				

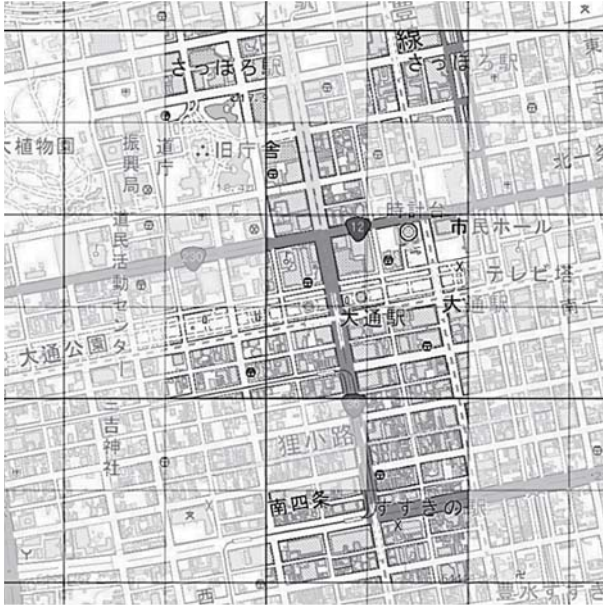
注目すべきは、総全日昼間流動人口で選択されたMTZであり、札幌では「交通」カテゴリーの観光地アメニティが充実しているMTZに流動人口が集まる傾



向が見られるが、京都では「交通」カテゴリーの観光地アメニティが貧弱なMTZに集まっている。また、特に総全日昼間流動人口の視点からは、札幌における観光パーソントリップと京都における観光パーソントリップは異なった観光地アメニティへのニーズに基づいていることを示唆している可能性がある。総全日昼間流動人口が多いMTZは、構成するメッシュ数が多い傾向があり、多数の観光地アメニティを結びつつ伸びる観光パーソントリップの集積によって形成されている可能性が高く、観光地での周遊型の行動をより大きく反映していると考えられる。したがって、この総全日昼間流動人口から見た差異は、札幌と京都という2つの都市の観光都市としての違いから、そこでの観光ニーズとその反映としての観光パーソントリップの違いを捉える糸口をマクロ的に示している結果と捉えることができるだろう。総全日昼間流動人口が多いMTZは、実際には中心的なターミナル駅周辺か、構成するメッシュ数が多いMTZという可能性が高い。特に、後者はある程度の範囲で一定以上の観光パーソントリップが集積しているタイプのMTZであるから、その範囲内にある観光地アメニティを巡るような周遊移動の存在が予測されるMTZである。観光地域内での周遊移動型の観光パーソントリップを捉えているという意味で、このタイプのMTZは観光パーソントリップ集積によって形成された観光エリアの広がりを検出している可能性が高い。

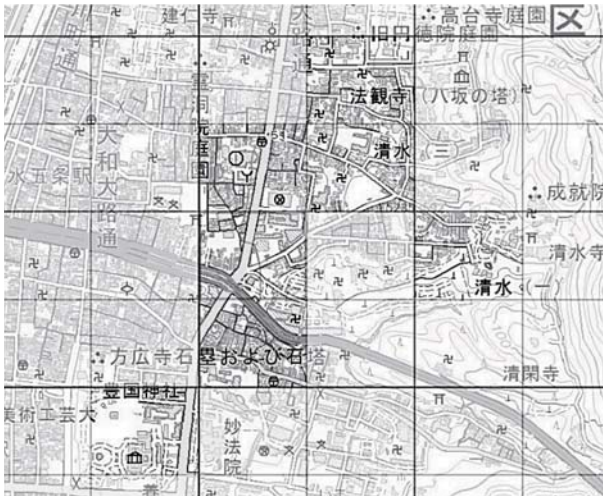
### 3. MTZが示す特徴的トリップパターン

MTZが、多数の重なった観光パーソントリップから形成されているのであれば、その形状を考察することは観光パーソントリップの特徴についての手がかりを与えてくれるはずである。札幌と京都で選択した個々のMTZについて、地図上にその形状を書き込んでみた（資料を参照）。各MTZの形状を観察すると、特に、有力な主要なアトラクション周辺の構成メッシュ数が多いMTZで、特徴的なトリップパターンがあるのではないかとすることに気付かされた。



注：地図データは国土地理院『電子国土web』（<http://maps.gsi.go.jp>）を使用（以下同様）。

図 1-2 MTZ の地理的形狀（札幌：S002）



注：地図データは国土地理院『電子国土web』（<http://maps.gsi.go.jp>）を使用

図 1-3 MTZ の地理的形狀（京都：K023）

例えば、図2と図3から、京都の清水寺周辺や札幌の時計台周辺である、K23とS02のMTZの形状と位置関係を見てみよう。(図中では、MTZの親メッシュを二重線で示している) これらのMTZの構成メッシュの形状は、このエリアでの主要なアトラクションであるはずの清水寺境内や時計台そのものを含むメッシュへの流動人口はそれほど高くなくゾーンを構成せず、周辺の参道や大通公園の流動人口が多いといえるような形状をしている。主要なアトラクションは、文字通り多くに人々を引き付ける存在であるから、そこに多くの流動人口が現れ、結果として親メッシュになっても不思議ではないはずだが、実際のMTZの形状を見ると、逆にその主要アトラクションがあるメッシュだけMTZから抜けているという意外な現象が観察された。

#### 4. 札幌でのヒアリング調査結果

2018年10月に、札幌の大通公園付近で実施した中国人来訪者と対象としたヒアリング調査では、回答者が訪問した(訪問予定の)MTZとそこで体験した(体験予定の)観光地のアメニティのカテゴリーなどを調査した。

その結果、繁華街であり外国人に限らず観光客の多い、札幌駅周辺、大通公園、狸小路といったMTZの訪問率は80%を超えており、次いで、宮の沢周辺、円山公園、藻岩山の訪問率も高い。一方で、手稲、桑園、東札幌周辺は住宅地で、観光ガイドブックでも紹介されることがほとんどない地域にも訪問者は5%程度存在しているという結果となった。MTZでの観光地アメニティ体験については、札幌駅周辺、大通公園、狸小路では非常に数多くの観光地アメニティを体験しており、次いで宮の沢駅周辺、円山公園、藻岩山、南8条周辺が多くなっている。また、訪問者・訪問予定者の多い地域では数多くの観光地アメニティを体験している。

訪問率と体験したアメニティの相関係数は0.995であり、観光地アメニティが多いMTZほど観光客が訪れる傾向が確認できた。これらの結果から、MTZは、旅行者の動態をマクロにとらえるひとつの概念としては有効であるといえるだろう。

#### 5. 京都でのヒアリング調査

2017年7月に、京都市の清水寺門前で実施した(参道を下ってくる)中国人来訪者と対象としたヒアリング調査では、回答者が主要なアトラクションであ

る清水寺の境内（有料区域）に参拝したかどうか、周辺の神社仏閣、土産物店、そして飲食店という観光地のアメニティを体験したかどうか、それらに関する各種の観光情報源を使用したかどうかなどを調査した。

その結果、回答者のおよそ半数が主要なアトラクションである清水寺の境内を体験していなかったという意外な結果となった。ただし、この結果は、主要なアトラクションが属するメッシュの流動人口が少ないという MTZ の形状に関する疑問への答えのひとつになっているだろう。しかし、その原因として想定していた、回答者の訪問経験回数とは有意な関連は見られなかった。一方で、清水寺以外の周辺社寺への体験率は、清水寺とほとんど変わらない水準であった。日本人、あるいは提供側が考える主要さと、インバウンド客が体験するかとはい、あまり一致していない可能性がある。他方で、土産物店や飲食店の体験（見ただけや食べ歩きも含める）率の方が清水寺よりも高いという結果となった。

利用する情報源は、旅行専門アプリが非常に高いという結果になった。確かに、近年急速に普及が進んでいるとはいえ、SNS なども抑えての利用率であった。また、訪問経験の増加が利用する情報源に影響すると考えたが、有意な結果は得られなかった。

## 6. 札幌市・京都市のガイドブック分析

ガイドブックの内容出現頻度分析では、札幌市では観光名所が高い割合で抽出されたが、京都市では観光名所より高い頻度で交通手段が抽出された。これは、札幌と京都の観光地のアメニティの数と分布の状況を反映した結果だと考えられる。また、中国で販売されている、日本を紹介したガイドブックの歴史を調べていくと、近年の旅行専門アプリの普及に繋がっていく様子が観察できた。

## 7. 中国での大規模ネット調査

現在の中国人たちは、一般的に旅行好きで、実際はかなり頻繁に旅行に出掛け、国際観光経験も多い人たちが多いという実態が分かった。そして、実際に観光に出掛ける際には、「自然」「文化」「食事」といったカテゴリーの観光地アメニティへのニーズが高く現れるという特徴が確認できた。また、旅行の際に収集・利用される情報形態・内容としては、風景や建物の写真やイラストの利

用頻度が非常に高いという状況も確認することができた。そして、旅行の際に利用される情報源としては、旅行専門アプリの利用程度が非常に高く、公式サイトがそれに続いているという一般的傾向も示された。また、自分で情報を集めて詳しい計画を立てるといった積極的な旅行者が過半数を占めていることが分かった。

一方、観光者が自身で撮影する写真については、旅行中撮影した写真や動画の内容と投稿状況にあわせて分析した結果、投稿枚数・本数の多寡と関係なく、統計的に特徴があった撮影内容は「人物：他人」と「人物：同行者」の2種類であることが分かった。中国人の旅行中の写真撮影や写真の SNS 等への投稿状況を分析することができた。

日本では実施できない、訪日未経験者をとした調査も行った。その結果、機会があれば日本を訪問したいと考えている割合も高く、そういう人たちは、日本の「伝統芸能」「乗り物」「建造物」への関心が高いということが分かった。こういった分野に重点を置いたインバウンド観光マーケティングがファースト・ビジター確保に効果的ではないかという示唆が得られた。

## まとめ

MTZ という観光パーソントリップが顕著に集積しているゾーンを流動人口データという二次データを使って選定することができた。今回得られた MTZ は、札幌と京都だけだが、中国からのインバウンド客の行動をある程度正確に把握する手がかりとなったといえる。そのような観光行動を誘導する観光情報については、調査努力にもかかわらず、残念ながらあまり明確なことが分からなかった。しかし、旅行専門アプリの台頭を確認することができた。個々の観光者のニーズや行動に応じて提供する情報を変えられる旅行専門アプリは、特定の観光パーソントリップを誘導する観光情報のあり方を大きく変える可能性がある。現在急激な変化のさなかであるこの分野については、今後さらなる研究が求められるだろう。

## 参考文献

総務省統計局『地域メッシュ統計について』

([https://www.stat.go.jp/data/mesh/m\\_tuite.html](https://www.stat.go.jp/data/mesh/m_tuite.html), 2019年2月13日最終閲覧)

田村正紀 編著『観光地のアメニティ』白桃書房, 2012年